

〔 特 集 〕

ふらいと先生と考える 子どもの医療政策！

正直な話をすると、今回企画案をいただいたときに断ろうかといったん考えていました。子どもの医療政策に携わっている関係者が国内に少ないことと、企画者としてバランスを取るのが難しいと感じたからです。しかし一方で、日本国内での議論があまりされていない分野だからこそ、いま特集として組むべきテーマなのではと使命感を感じ、引き受けました。

医療政策は現場の小児医療関係者だけで進められるものでは決してありません。可能な限り中立的な立場で、さまざまな視点をもった有識者の方々に、それぞれのもち場での現状と課題を述べてもらう必要があると感じました。また医療政策を考えるに当たって、コミュニケーションなどの伝え方も大事だと考えました。おかげさまで、学会、厚生労働省、政治家、ナショナルセンター、患者会、NPO、そしてメディア関係者と多岐に渡る有識者の方々に執筆いただき、我ながらとても面白い特集号になったのではないかと自負しております（ご協力いただいた皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます）。

医療政策は、コロナ流行時など有事の際に大きく取り上げられますが、本来は平時より議論を継続していく必要のある分野だと感じています。この特集号をきっかけに日本国内でも関心が高まることを期待します。

〔カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）／今西洋介〕

